

## 登壇者プロフィール※登壇順

### ◇熊倉和歌子 Kumakura Wakako

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教。専門は、中近世エジプト史。2019年度より共同研究プロジェクトとしてQalawun VR Projectを開始、カラーウン病院(13世紀末創建)のVRツアーを制作、公開している(<https://qalawun.aa-ken.jp>)。主著に『中世エジプトの土地制度とナイル灌漑』。

### ◇柳谷あゆみ Yanagiya Ayumi

(公財)東洋文庫研究員・上智大学アジア文化研究所共同研究員。専門はザンギー朝の政治史。現代アラブ文学の翻訳も手掛ける。主な訳書にアフマド・サアダーウィー著『バグダードのフランケンシュタイン』、ザカリーヤ・ターミル著『酸っぱいブドウ/はりねずみ』、サマル・ヤズベク著『無の国の門 引き裂かれた祖国シリアへの旅』。

### ◇澤井一彰 Sawai Kazuaki

関西大学文学部(文化共生学専修)教授。専門はオスマン朝、とりわけイスタンブルの社会経済史、比較食文化史研究。著書として『オスマン朝の食糧危機と穀物供給——16世紀後半の東地中海世界』、共著に『別冊環トルコとは何か』、『環境に挑む歴史学』、『地中海世界の中世史』など。

### ◇藤元優子 Fujimoto Yuko

大阪大学言語文化研究科教授。専門分野はイラン現代文学、主に女性作家の小説を扱ってきた。訳書に、『天空の家——イラン女性作家選』(段々社、2014年)、『ゾヤ・ピールザード選集 復活祭前日』(大同生命国際文化基金、2019年)。

### ◇臼杵陽 Usuki Akira

日本女子大学文学部史学科教授、同大学図書館長。専門はパレスチナ/イスラエル近現代史、日本・中東関係史。主著に『日本人にとってエルサレムとは何か—聖地巡礼の近現代史』(ミネルヴァ書房)、『「中東」の世界史』『「ユダヤ」の世界史』(作品社)、『世界史の中のパレスチナ問題』(講談社現代新書)、『イスラエル』(岩波新書)など。